



なんぶ

議会だより

第52号

平成29年9月議会

発行/平成29年11月



- 9月定例議会報告2
- ご意見・要望への回答 Q&A.....6
- 一般質問.....8
- 研修会報告・議会活動日誌 ... 13
- あとがき..... 14

平成28年度
決算

賛成 10人 反対 3人

で認定 一般会計

9月
定例議会

平成29年9月定例議会が9月7日から26日までの会期で開催されました。平成28年度の一般会計、特別会計の決算をはじめ、平成29年度の一般会計補正など20議案が審議され、4件の発議案を含めすべて認定・可決されました。

討論

平成28年度一般会計歳入歳出決算

反対

賛成

- ① 電算管理事業は本来マイナンバー制度に伴う維持管理費であり国が行う仕事の肩代わりである。

② 複合施設整備検討事業は南部町公民館さいはく分館の建設、整備を基本とするべきものである。しかし、検討委員会は複合施設の建設を前提としている。又、建設費用が未だに示されていない。

③ 西伯病院の起債返還の利子の補助を県は行っているのに町は行っていない。

④ 地方創生加速化交付金を使ってまちづくり会社を立ちあげた。今年は2,500万円支払ったが5年後に自立の保証があるのか。

⑤ 地域振興協議会には年間5,000万円支払っているが自立することができるのか。

⑥ 農業振興費はほとんどが認定農業者や集落営農への補助であり小規模農家や家族経営にはあてられていない。

⑦ 伯耆の国の委託料1億8,320万円は毎年の実費で支払うべき。
- ① フロンティアスピリッツに溢れた南部町にふさわしい決算だ。

② 決算に基づく健全化判断比率は実質収支は黒字で、実質公債費比率、将来負担比率ともに健全である。課によつては執行率の低い事業があり、町民に使いやすい工夫が必要だ。

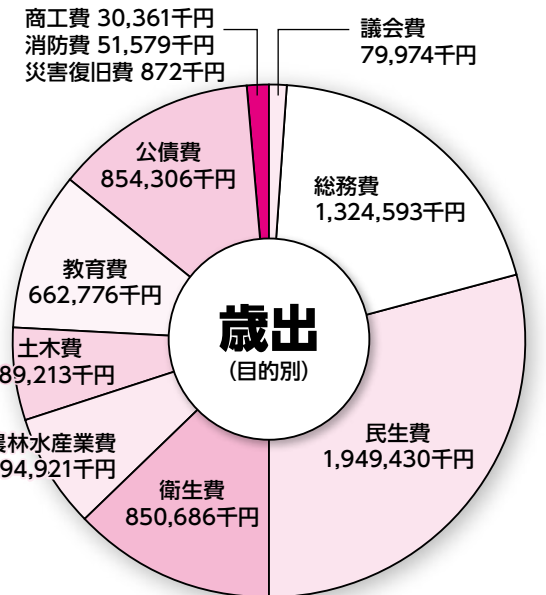
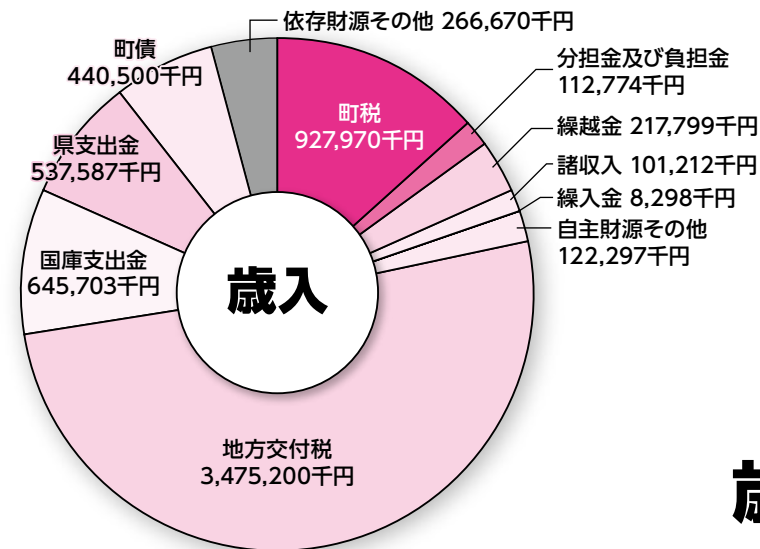
③ マイナンバーの交付金は国からの交付金が入っている。複合施設についてはまだ検討段階である。さいはく分館は建設から40年以上経ち老朽化しているので改修は難しいと思う。西伯病院に対しては過去に1億5,000万円ほど支払っている。

④ 地方創生加速化交付金は地方創生に関わる土台を作るものであり、まだ始まったばかりである。

⑤ 地域振興協議会は既にある程度自立している。

⑥ 町政のスリム化は必要であり、アウトソーシング的に民間にお願いできるところは民間にお願いしながら進めて行くことが必要だ。

歳入 68億5,601万円
(前年比3億4975万円減)



歳出 66億8,871万円
(前年比2億9925万円減)

平成28年度の一般会計決算は歳入68億5,601万円、歳出66億8,871万円で、形式収支は、1億6,729万円となった。この収支から翌年へ繰り越すべき財源1,691万円を差し引いた実質単年度収支は4,357万円の黒字となった。

主な事業

- 地方バス対策事業..... 2,859万円
- 公設民営保育園運営事業..... 1億8,499万円
- がん征圧事業..... 4,262万円
- 高校生サークル国際交流事業..... 79万円
- 西伯小学校プール改築事業..... 1億8,616万円
- 児童生徒就学援助事業..... 623万円
- お試し住居推進事業..... 895万円
- 有害鳥獣駆除事業・鳥獣被害対策事業..... 1,504万円
- 情報システムセキュリティ強靱性向上事業..... 2,765万円
- まちづくり会社支援事業..... 2,495万円
- がんばれふるさと寄付金事業..... 2,913万円
- 地域振興交付金事業..... 5,284万円



28年度一般会計決算の認定採決決算 (○賛成 ×反対)

会計名／議員名 (議席番号順)	加藤	荊尾	滝山	長束	白川	三嶋	仲田	板井	景山	細田	井田	亀尾	真壁
平成28年度一般会計決算	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×



平成29年度
補正予算

賛成10人
反対3人
で可決

賛成

就学奨励金は県の制度より上乗せして、要援護者まで拡大している。ひきこもり対策については5年間で余剰金がなくなった後、町の施策として社協に委託することで賛成する。

反対

町の行うひきこもり対策、社協の姿勢は評価する。しかし、お金の出し方を審査する立場からは納得できない。

討論

歳入歳出総額に1億6,565万1千円を追加し歳入歳出をそれぞれ70億9,836万9千円とする。

【一般会計の主な内容】	補正額 (千円)	計 (千円)
○小中学校空調システム整備事業	92,463	274,104
○6次産業化支援事業	10,597	10,597
○100歳体操普及啓発事業	1,698	1,698
○地域共生社会実現事業	38,800	38,800
○浄化槽整備事業 特別会計繰り出金	2,323	33,264

29年度一般会計補正予算の採決結果 (○賛成 ×反対)

会計名／議員名 (議席番号順)	加藤	荊尾	滝山	長束	白川	三嶋	仲田	板井	景山	細田	井田	亀尾	眞壁
平成29年度一般会計補正予算	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×

その他案件の採決結果 (全員一致)

案件名	主な内容	補正額(千円)	計(千円)
平成29年度浄化槽整備事業特別会計補正予算	設置計画の変更	6,300	62,970
平成29年度水道事業会計補正予算	水道事業収益		資本的収入
	繰出し金の増額	217	1,362
平成29年度病院事業会計補正予算	資本的収入		資本的支出
	医療機器の補正	10,800	13,004
主な内容			
南部町災害遺児手当支給条例一部改正	災害遺児手当を父子家庭も対象を拡大する		
サテライト拠点施設整備事業(賀野地区)建設工事に関する契約の締結	株式会社ティー・エム・エスと契約を締結する		
全国森林環境税等の創設に関する意見書	森林・林業施設等を推進するため新たな税財源の創設		
核兵器廃絶への賛同を求め、平和的・外交手段で核・ミサイル問題を解決することを求める意見書	政府に、核兵器禁止条約に賛同するよう要請 米朝両国に平和的、外交的手段で解決するよう要請		
道路整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律の継続に関する意見書	特別措置が平成30年度以降も継続するよう求める		

陳情

あなたの陳情の結果を報告します。

案件名	提出者	可否	発議
教職員定数改善と義務教育費国庫負担制度2分の1復元をはかるための、2018年度政府予算に係る意見書採択の陳情書	鳥取県教職員組合西部支部 支部長 藤本 敏秀 鳥取県高等学校教職員組合西部支部 支部長 岡島 恒志	採択	国へ意見書を提出する

その他の会計報告 (全員一致)

会計名 (決算)	歳入 (万円)	歳出 (万円)	差引額 (万円)
墓苑事業特別会計	230	230	0
住宅資金貸付事業特別会計	548	274	274
太陽光発電事業特別会計	7,268	7,262	5
病院事業会計歳入歳出	244,718	241,647	3,071
鳥取県西部町村情報公開・個人情報保護審査会特別会計	43	2	41
在宅生活支援事業特別会計	3,629	3,125	136

主な会計決算認定の討論

賛成

一般会計から1億数千円を繰り入れて会計維持している。人口世帯数が減り、収入が少なくなる中、経費削減で頑張っている。賛成するべきだ。

反対

加入金と利用料を下げるべきだ。

賛成

後期高齢者医療会計は県下一本の会計であり、赤字にはなっていない。がんばっている決算であり賛成する。

反対

広域化により住民の声が反映されていない。年金が下がり、消費税は10%に上がる。保険料を引き下げるべき。

賛成

黒字決算となった。保健事業等を充実した結果だと思う。保険料が高く、広域化には不明な点も多々あるが、南部町の国保を守る点において賛成。

反対

基金や一般財源を入れて保険料を引き下げるべき。広域化することに問題点がある。

国民健康保険事業特別会計

後期高齢者医療特別会計

農業集落排水事業特別会計

会見浄化センター

会見浄化センター

会見浄化センター

平成28年度特別・水道会計決算の採決結果 (○賛成 ×反対)

会計名／議員名 (議席番号順)	歳入 (万円)	歳出 (万円)	差引額 (万円)	加藤	荊尾	滝山	長束	白川	三嶋	仲田	板井	景山	細田	井田	亀尾	眞壁
国民健康保険事業特別会計	152,676	149,347	3,329	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×
後期高齢者医療特別会計	12,450	12,317	133	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×
農業集落排水事業特別会計	24,637	24,597	40	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×
浄化槽整備事業特別会計	5,228	5,221	7	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×
公共下水道事業特別会計	18,976	18,940	36	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×
水道事業特別会計歳入歳出	23,091	22,079	1,012	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×

区長手当て	地域振興協議会ごとに区長(評議員)手当の金額が違う、一律にするべきだ。	「地方自治を住民の手に」を合言葉に地域振興協議会は設立されています。よって区長(評議員)手当の額についても、協議会ごとに民主的に決定されるべきものと理解しています。
-------	-------------------------------------	--

企画政策課

	質問・意見	回 答
公共交通	高齢者にとって、外に出かけることが皆さんの健康につながっていると思っている。これまで、公共交通の恩恵を受ける事が出来なかった谷の集落まで届く施策をお願いしたい。	現在、町内の公共交通網再編のために、計画を策定中です。これまでバスの通らなかった枝線にも、対応できるような計画を策定し、実施したいと考えています。
なんぶだんだんエナジー	水道事業会計から電力会社に出資している。決算状況から水道会計に配当が繰り入れがされていないようだがなぜか。	平成28年12月から稼働しているため、初年度については収益が発生しておらず、配当はありませんでした。

教育委員会

	質問・意見	回 答
小中学校統合問題	中学生も少なくなって部活等も支障がある。中学校の統合について検討をする時期になっていると思う。	小・中学校統合の是非については教育行政がその責務を担っていますが、単に児童・生徒数の多少ではなく、児童・生徒の実態をふまえながら義務教育の質を見極めることが大切です。因みに、両中学校とも今後10年間の生徒数は微減傾向にあるものの、教職員配置の基準となる学級数に変動はありません。

建設課

	質問・意見	回 答
残土処分地と里地里山指定	会第2小学校横の公共残土・建設残土の埋立について、重要な里地里山に指定されている場所の開発についてどうなっているのか。	「里地里山」の指定は、森林や川、農地など人々の暮らしや関わりによって維持されている自然を広く国民に知らしめる狙いがあります。環境省によりますと、「里地里山」の指定は土地の利活用等に対し新たな制約や規制等を生じさせたりこれまでと同様の方法で里地里山を管理し続けることを義務付けるものでもないとしています。しかし、事業実施にあたっては、美しい田園風景や貴重な生態系維持に十分な配慮が必要と考えています。

産業課

	質問・意見	回 答
ナラ枯れ対策	ナラ枯れの現状と対策について、農道等、町や県が管理しない所での駆除はどのようになっているか。	ナラ枯れ対策につきましては、全額県の補助金で実施するものですが、大山周辺の被害が著しく南部町への配分がほとんどない現状です。農道に限らずすべてのナラ枯れについて対策を実施する計画で進めています。
農業問題	産業振興について、中山間地(小規模農家)の農業に厚い手当を打ってほしい。また、農業法人、生産組合に対しても安心をして農業を続けることができる対策をしてほしい。	現状の制度の、日本型直接支払制度(多面的機能、中山間)を利用して頂くとともに、汗かく農業者支援事業をご活用ください。農業法人等に関しては国及び県の補助を紹介していますので産業課までご相談ください。
イノシシ対策	イノシシ対策について、駆除の期間だけでなく年中の被害対策に補助金を出してほしい。中山間、農地水保全事業支払制度についても、事務軽減をしてほしい。	猟友会が狩猟期において狩猟されており、ワイヤーメッシュについては年間の予算の中で事業を行っています。日本型直接支払制度の事務簡素化につきましては、県に再三にわたり要望をしていますので継続して要望をしていきます。
耕作放棄地問題	米の価格補償に不安もあり、中山間地域も耕作放棄地が年々多くなっている。山間地は疲弊している。農家が意欲を持てる施策について農地中間管理機構に働きかけてほしい。	農地中間管理機構は、農地を受け手と出し手に仲介するのが主な役割であるため、産業課が中心となって施策を考えていきたいと思えます。

『住民の声をきく会』で出されたご意見・要望への回答 Q&A

9月2日に「富有まんてんホール」、3日は「プラザ西伯」を会場に「住民の声をきく会」を開催しました。

述べ40名の住民の皆様に参加いただき、様々なご意見や要望がだされました。

その中で、議会全体として見解を協議する必要があるものについては、当日回答を保留したものを掲載しています。

町行政の考え方、対応に関するご質問については、町行政担当課からの回答を載せています。



議会

	質問・意見	回 答
住民の声をきく会の開催場所	「住民の声をきく会」が前回は協議会単位であった。参加者の立場では小さい括りが出やすいと思った。今後は考えてほしい。	いろいろな立場の方や方法を考えながら、「住民の声をきく会」を幅広く計画します。
水道料金	住民の声をきいた後の対応が問題である。水道料金の3年後の値上げについて、今決めるのではなく検討会などの開催で、住民のこえを聞いて決められないか。	現状では、3月議会で可決されていることをご理解ください。
なんぶSANチャンネルによる議会放映	町と住民との接点は良好であると思っている反面、議会との距離を感じる。執行部の提案に対する審議や陳情、請願の審議状況、過程が不透明である。SANチャンネルによる放送が出来ないか。	過去にも要望があり検討しました。現状では放送の設備やスタッフの現状から困難な状況です。引続き、議会改革調査特別委員会を検討します。
地域振興協議会への議員参画	地域振興協議会に集落から役員を出すことに苦労している。イベント等でも参加者が少なく議員も積極的に参加してほしい。	議員個人の判断に任せます。
子ども議会	若者が町外に出ていく現在の状況で、若者の町に対する愛着を持たせる施策が必要だと思う。「子ども議会」の開催について計画があるのか。	学校のスケジュール等調整しながら、検討していきます。

町民生活課

	質問・意見	回 答
行政手続きの簡素化	生ごみコンポスト等、少額(2千円)の補助金の場合でも面倒な手続きが必要である。もっと簡素に出来ないか。	手続の簡素化に向けて年内を目途に調整を行う予定です。

総務課

	質問・意見	回 答
消火栓の活用	防災(防火)について、広域消防は消火栓の利用について、消防車とホースで接続することは無いと言っているが何故か。	火災の消防水利としては、防火水槽を第一選定としています。南部町の消火栓はV.P管(エスロン)で配管してあるため、消防車が接続すると放水による圧力で、配管が破損します。消火栓の活用策は、防火水槽への補水や地域の自営消防での初期消火のための使用が考えられます。

あなたの声を
町政に問う！



【質問の通告】
一般質問は、議題と関係なく行財政全般にわたる議員主導による政策論議で、通告制で行っている。

【一般質問の時間】
定例議会において行われ、南部町は議員からの質問時間は30分と定められている。町民皆様の声を町政に問います。

議員名	発言時間	質問事項	
1 加藤 学	30	1	学校給食で地産地消の拡大
		2	通学路の交通安全
		3	残土処分場
2 荊尾芳之	30	1	地域公共交通
		2	農業施策
		3	健康寿命
3 長束博信	20	1	防災体制
		2	原子力災害
4 仲田司朗	30	1	100歳体操普及啓発事業
		2	障がい者福祉行政政策
5 板井 隆	30	1	移住・交流施策
6 景山 浩	20	1	学校教育の将来ビジョン
7 亀尾共三	30	1	「核兵器禁止条約」について問う
		2	複合施設計画を問う
		3	子育て支援を問う
8 真壁容子	30	1	産廃処分場に用地を提供しないよう求める
		2	耐震シェルター設置への補助制度を求める
		3	社会保障制度の充実を求める
9 細田元教	30	1	地方創生について

地域公共交通対策

荊尾芳之議員

Q

東長田・上長田の日の丸バスの改正を問う

A

現状より住民の利便性を良くする

町長

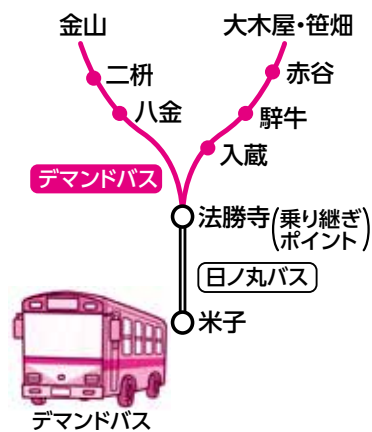


荊尾 平成30年度の秋から、日の丸バスの東長田線と上長田線の現行ダイヤの、朝8時までの米子行きの便は、現行どおり走らせるように残して、8時以降はすべて法勝寺止めにする。これにより、東長田線、上長田線が走っていた地域の住民をどのように乗り継ぎをさせるのか、また、乗り継ぎポイントとなるバス停はどこかを問う。

町長 来年の秋から東長田線、大木屋上長田線全便を法勝寺周辺止めとし、法勝寺以南の交通体系を再編するものだ。

通学、通勤時間帯の朝8時までの便は、今までどおり残り、それ以降の時間帯については、町営デマンドバスで補う。

現行の路線バスでは入りきれなかった、東長田の二柵、金ヶ崎八金、久蔵を、上長田では、赤谷、驛牛、入蔵の全ての集落に乗り入れるので、該当地域の利便性は向上すると考える。



デマンドバスは、定時定路線で時刻を決めて、例えば金山から法勝寺までの区間を運行する。予約の電話があれば枝線に、例えば八金にも入る。そして、乗り継ぎポイントとなる法勝寺で一度デマンドバスから降りて、その後日の丸バスに乗り換えて米子市へ向う。ちょっと手間がかかるし一つ作業は増えるが、今までバスが入っていなかった空白地域については、交通弱者といわれる方のお手伝いが出来るものと考えている。

また、高校生が、定期券を持って米子市に通学する場合、帰りは、定期券を見せれば、デマンドバスの150円の料金は、無料にするよう、二重の負担がないように考えている。

学校給食で地産地消の拡大

加藤 学議員

Q

意欲が湧く価格設定とは何か

A

あくまでも一つの案

町長



加藤 6月議会で補助金の割合の引き上げよりも、買い上げ価格を意欲が湧く価格設定にするとあったが、これは具体的に何か？

それはいつから行うのか？

参加される農家を増やす方法を具体的に考えているのか？

町長 意欲が湧く単価設定とはあくまでも食材供給連絡協議会の提供する食材料、農家数が減っている現状を解決するための多面的な検討の案として申し上げたこと。8月に食材供給連絡協議会の代表と教育委員会事務局、産業課と話し合った。その時、単価設定が生産者の増加にはつながらないという意見も出た。多面的に検討して行く必要があることを関係者で再認識した。

今後、関係者が話し合いを行



食材会議

う予定である。その結果を踏まえて、来年度の予算や農産物の作付け時期にも関わってくる問題なので早めに検討を進めた。

町内の農家数自体が減っている。なので単純に参加される農家数を増やすのは困難だと考える。納入率の向上を目指して、タマネギ、ジャガイモ、大根、ニンジンなどの使用頻度が高く、一定期間貯蔵が可能な品目について年間の必要量、必要時期の目安を設定し、農家の方に時期に合わせて作付けをお願いすることは、一定の効果があるのではないかと考える。

防災体制について

長束博信議員

Q

災害発生時の町民の安全・安心確保の体制は

A

町ホームページに災害情報通報ページ設置 町長



長束 町の基本方針は①災害に強いまちづくり②災害に強い体制づくりを掲げているが、万が一道路寸断災害など発生した場合、情報収集、要援護者、被害状況把握、救助など町民の安全・安心はどのような体制で確保するのか。

また、原発からの距離が30kmを超える位置にある南部町で島根原子力発電所が事故により放射性物質の放出となった場合を想定した時の町の対応策について問う。

町長 従来の情報入手に加え、新たな情報入手の方法は町のホームページに災害情報通報ページを設け、住民の協力を得て道路、河川などの異常発生場所や状況の情報を携帯やスマートフォンなどの位置情報付きの

画像を添付していただくことで正確な情報の把握を行う。行政情報の発信手段としては、南部町版フェイスブックを立ち上げ、緊急情報を発信運用する。ドローンは災害時に非常に有効な手段の一つとして考えている。

要援護者については、避難行動要支援台帳システムを導入管理しており、現在約900人の登録があり、もしもの際は迅速に利用可能としている。また、各集落でも要援護者マップの作成をお願いしており集落でも援護者の把握を進めているところである。

原子力災害については、南部町は34〜46km離れておりUPZ（緊急時防護措置を準備する区域）外だが、万が一事故の場合は、UPZと同様な屋内退避が指示されるため、県の放射線研修会や原子力防災訓練に職員・保健師など参加させ知識の取得に努めている。広域被害の場合は西部7市町村で避難所開設など共同で取り組んでいく。

Q いつから実施するのか

A 10月から実施したい

町長



仲田 町長の3月議会の提案説明の中に、健康長寿のまちづくりに挑戦すると表明され、その具体的な取組みがこの事業であるが、100歳体操普及事業と健康診断だけで、健康寿命を延ばすことができるのか。

町長 町民の生活習慣病の厳しい現状の多くは、既に治療中の方や健診未受診者の方の状況と推察される。治療されている方は、医療機関において適切な指導を受けておられるが、健診未受診者の方への対応は課題だと考える。

生活習慣病の中には、自覚症状が出たときには既に重症化している場合があるので、自分の健康状態を把握していただくことが重要である。

健康診断未受診者への受診勧奨や健康情報の提供などは、今

後も根気よく継続する。また、運動習慣も生活習慣病の改善に欠かせないものである。

運動を続けることは筋力低下を防ぎ、転倒を予防し、介護予防や認知症の予防に効果があると言われているので、100歳体操をぜひ活用していただきたい。

あわせて体操を活用して、集落やご近所ので、集まるきっかけづくりにしていただきたい。実施時期は10月より行いたい。

歩いていけるぐらいの範囲で、誘い合い、近所の方が集まって運動に取り組みづくりなどができると、より地域で安心して生活ができる。

健康診断で健康状態の把握、運動で健康づくり、参加することを楽しみを見つけていただき、いつまでも住みなれた地域で自分らしく暮らし続けていただけるように、健康長寿のまちづくりを推進していきたい。

Q 移住に求められる地域の姿勢

A 移住者の不安解消に柔軟に接していただきたい 町長



板井 町が進める移住・交流施策について、新しい生活環境を求めて移住される方への支援をしている。

いい形の移住と求められる地域の姿勢について、町長の考えを伺う。

町長 町の人口推移について、平成29年1月現在の人口は11,184人で自然増減は99人の自然減で、社会増減は36人の社会増で、県内で最も良い成果をおさめた。これは、人口減少と経済縮小の克服を目的に、町民皆さんと一緒に作成した「なんぶ創生総合戦略」の成果があらわれたものと考えている。

移住定住については南部町の魅力を伝える広報に力を注いでいる。

また、移住希望者は人生を左右する大きな決断となる。

行政を含めた地域社会が移住者との交流の中で、人をも支えることの価値を学び合い、そこから支えるための新しい仕組みを生み出していくことが、いい形の移住者を増やす方法であると考えている。

移住者と集落の関係について、地域に溶け込むために、なんぶ里山機構などがサポートしている。また、集落集落主催で歓迎会を開催されたときの奨励金制度も設けた。移住された方が地域に定着し活躍するには、不安解消に柔軟に接していただく、地域の皆さんの理解と協力をお願いしたい。



学校教育の将来ビジョン

景山 浩 議員

Q 将来ビジョンを明確にすべき時期

A 小中一貫の義務教育学校を内部検討中 教育長



景山 少子化の進展でまず最初に影響を受ける問題の一つに小中学校での学校教育が挙げられる。入学生徒数の減少に伴い、クラス数の減少が続いている。

この生徒数の減少が、学校教育や学校運営、クラブ活動等の課外活動やPTAなどの保護者負担等々に多大な影響を及ぼし始めている。

学校の大小それぞれにメリットやデメリットが考えられるが、町の将来を担う大切な子どもたちのためには、当町の条件下で最適な教育環境を整える必要がある。

それらを総合的に判断して南部町の学校教育の将来ビジョンを明確にすべき時期に来ていると思われるが、教育長の考えはどうか。

教育長 平成35年度の児童生徒数は今年度の831名から約130名あまり減少した698名と予測される。一層の子育て支援や移住定住促進等の諸施策の強化が求められている。

児童数減少での学校現場の問題は学級編成の固定化がある。会見小、南部中では各学年1学級とならざるを得ない状況にあり、人間関係が固定化しがちで、複数学級の編成が望ましい。

また、喫緊の課題としては、運動部の継続が難しくなってくることもある。

学校規模の適正化を考える際、変化する社会環境の中で生きていく子どもたちの特性を踏まえた検討が必要である。教育委員会の内部では、小中一貫の義務教育学校を検討中である。

複合施設建設

亀尾共三 議員

Q 整備に多額の税金の投入は避けるべき

A 施設の費用は抑える考えである 町長



亀尾 複合施設整備委員会に示された町の基本計画の素案は、施設の規模は相当大きなものが計画されている費用を概算で示して頂きたい。

さいはく分館の建て替えを前提にした計画になっているが、改修をするとしたらその費用を示して頂きたい。

法勝寺周辺には、しあわせ、プラザ西伯、図書館、公民館などの施設が集中しており、公民館の建て替えでなく、複合施設の必要な根拠を示して頂きたい。

さいはく分館に公民館主事がないが、西伯地域の社会教育の拠点施設であるなら、公民館主事の配置を至急に求める。合併後の施設整備の経過を考えると改修がほとんどであり、今後のランニングコストも考え、施設建設へ多額の税金の投入は避け

て改修が必要と思うがどうか。
町長 第2回目の検討委員会に基本の素案を示し、複合施設の必要性と、目的基本方針、コンセプト等について議論をいただいた。

規模や整備に伴う費用について、今後示していきたいと考えている。現在の施設の老朽化に加え、鳥取県西部地震の影響もあり、雨漏りや設備面での不具合の状況になっており、旧耐震基準で建築されたものであり、建て替えを前提に議論をすすめているところである。それぞれの施設単体ではできない人の流れもあり相乗的に各施設の利用率の増加と活気につなげたいと考えている。

町としてもいたずらに大きな施設を整備するのではなく、必要な施設の費用もなるべく抑えながら整備したいと考えているので、ご理解いただきたい。

研修会では、「移住女子はなぜ地方に向かうのか」と題して、ローカルジャーナリストの田中輝美さんの講演があった。



8月18日に日吉津村「ヴィンステひえづ」において、自治功労者表彰式及び西部町村議員研修会が開催された。
南部町議会議員では、通算18年以上在職し功労のあった議員として、井田章雄議員と細田元教議員が表彰を受けた。
午後は議員親善グラウンドゴルフ大会が開催され、西部町村議員相互の親善と交流を深めることができた。

西部町村議員研修会報告



た。地方は「課題があることがおもしろい」「チャレンジしやすい」魅力がある。
●日本が将来迎える人口減の地方は最先端。
●都会のふるさと難民のあこがれ、帰省できる場。
●自分の存在感が都会より地方が大きい。(人口比)など
都会の若者の考え方や地方の魅力に誇りをもち、地域に関わる関係人口を増やすことからと話された。

町長

法により、家庭ごみ等一般廃棄物の処理は市町村、

真壁 県西部広域行政管理組合(西部広域)によれば、現在の一般廃棄物最終処分場(淀江)は、あと10年で満杯になるという。次期処分場用地としては、隣接する米子市有地がこれまでの協定等で一般廃棄物最終処分場にしか使えない土地になっており、次期処分場の有力候補地だ。



産廃廃棄物は県が、それぞれ適正な措置を講じることとなっており、その役割が分かれているところだ。西部広域ではまだ一般廃棄物次期計画が策定されておらず、土地を含め今後検討されることになる。一般廃棄物、産廃廃棄物処分はともに生活に必要な不可欠な施設であり、冷静に進捗を見守る必要がある。現時点で米子市長に要請を行うことはできないと考えている。

ごみ処分場問題

真壁容子 議員

Q

産廃処分場に用地を提供しないよう求める

A

冷静に進捗を見守る必要がある

町長



地方創生について

細田元教 議員

Q

地方創生の今後の展望は

A

医療福祉子育て教育の充実

町長



細田 平成28年度までの成果と、今後何をもちて地方創生されるのか、我が町のブランド力でおおしが必要と思う。それが決まれば各課それに沿った施策を実現させないといけない。今後の我が町の展望を伺いたい。

町長

平成28年には空き家を活用した住まいの提供など、移住定住支援に取り組んでおり、8軒の空き家を改修し18名の移住者を受け入れ今年度も既に3軒の空き家を改修し7名の方が入居された。移住定住に大きく貢献している。平成28年1月から12月の社会増減数は南部町が36人で県内最も多い増加数である。

本町においてこれまで先進的に進めてきた福祉施策により、全国でも福祉の町南部町として

知られていると認識している。また、近年取り組みを進めている子育て施策により、子育て世代からも選ばれる町となっている。

取り組みを進めている生涯活躍のまち構想においても、南部町の充実した医療、福祉施策をさらに充実させることで、住民誰もが暮らしやすい南部町版生涯活躍のまちづくりを目指すこととしている。地方創生はそうした医療福祉、子育て、教育などの施策により住民の生活をしっかりと支えながら、農業、観光、産業などの施策により地域経済の振興を図り、南部町に暮らす住民の方々が町に誇りと愛着を持って生き生きと暮らしていくことが目指すところだと認識している。

議会活動日誌

8月		
日	曜日	会議・行事
1	火	行政視察受け入れ(香川県高松市議会)
4	金	南部箕蚊屋広域連合議会運営委員会
18	金	西部町村議会議長会表彰式、研修会
21	月	議会運営委員会 複合施設建設調査特別委員会
22	火	南部箕蚊屋広域連合議会 議会運営委員会、 全員協議会、定例会
23	水	2か町清掃施設管理組合議会 全員協議会、定例会
24	木	鳥取県町村議会広報研修会(湯梨浜町) 西部広域行政管理組合議会臨時会
25	金	鳥取県町村議会議長会役員会
28	月	西部町村議会議長会行政調査(北海道)~8/30

9月		
日	曜日	会議・行事
2	土	住民の声をきく会(まんてんホール)
3	日	住民の声をきく会(プラザ西伯)
7	木	議会運営委員会、全員協議会、定例議会(本会議)
8	金	定例議会(本会議)
11	月	定例議会(一般質問)
12	火	定例議会(一般質問)
13	水	常任委員会
14	木	常任委員会
15	金	常任委員会
19	火	常任委員会
20	水	常任委員会
21	木	常任委員会
25	月	議会運営委員会、全員協議会
26	火	定例議会(本会議)
28	木	2か町清掃施設管理組合行政調査(三重県他)~9/29
29	金	全国町村議会広報研修会(東京都)

東西町地域振興協議会

東西町は、次の3部と事務局及び各種団体によって東西町地域振興協議会のテーマ「安全安心で住んで良かった町づくり」に向けて、事業展開を行なっています。

町づくり部：環境整備と防災等の安全な町づくりを中心とした事業を実施。

人づくり部：交流と人づくりを中心とした事業で、持続可能な町づくりを行う。

福祉部：いつまでも地域で住み続けるために福祉を中心とした事業の開催。

東西町地域振興協議会を代表する主な事業として、

- ①仕事を持った保護者の利便性と、地域の子どもは地域で育てることを目的として、平成24年4月から東西町放課後児童クラブを開級。
- ②いつまでも地域で住み続けたいという高齢者の思いを受け、平成25年6月「西町の郷」を創設。
- ③防災への取り組みでは、災害時初動対応組織での安否確認協力委員の確立等により消防庁長官表彰「防災町づくり大賞」を授賞。

- ④自主ボランティア（野菜市、わくわくショップ）等による買い物機会の提供及び、除雪、パトロール、子ども見守り等へも多くの方にご協力いただいています。

自分達の町は自分達で作るという意識で、今後も更に多くの皆さんに参加していただき、「住んで良かった町づくり」を目指します。

会長 原 和正



防災訓練(避難訓練と区ごとに行われたワークショップ)



第10回夏休みラジオ体操記念
ソーメン流し(西町の中央道で開催)



いつまでも元気で仲良く「西町の郷」



家庭のような居心地の「東西町放課後児童クラブ」

あとがき

9月28日東京都の「シェーンバッハ・サボー」において、町村議会広報研修会が開催され、初めて参加いたしました。

研修会では、

①「伝える広報」から

「伝える広報」へ

②議会広報 広報紙と

電子広報何が変わ

わってきたか

③議会広報コンクール

優秀賞受賞紙から学ぶ

という講演内容でした。

全国の優秀広報紙面

を見て、編集の仕方・

特集記事等参考になる

ことが多くあり、我が

町の広報紙に取組んで

いきたいと思えます。

(仲田)

広報常任委員会

委員長 仲田

副委員長 司朗

委員 荊尾

景山 芳之

三鴨 義浩

白川 立真

長束 博信

滝山 克己

加藤 学